

千葉市子育て環境に関する  
アンケート調査結果  
【20代・30代】

平成22年3月

千葉市

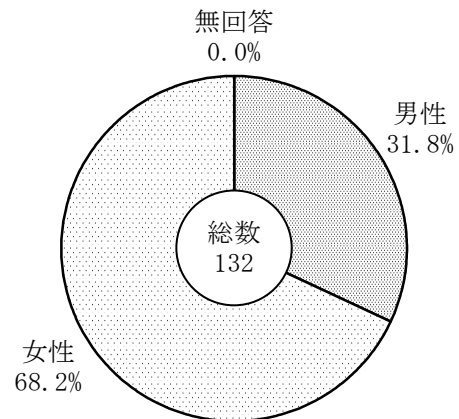
## 目次

1	基本属性について.....	1
2	既婚者の仕事、結婚に関する意識について.....	5
3	未婚者の仕事、結婚、育児に関する意識について.....	13
4	結婚観、大人に関する意識について.....	15
5	出産・育児に対する意識について.....	17
6	子育て支援に対する実態や意識について.....	20
7	少子化の要因について.....	24
8	地域活動について.....	27
9	生活環境について.....	30

# 1 基本属性について

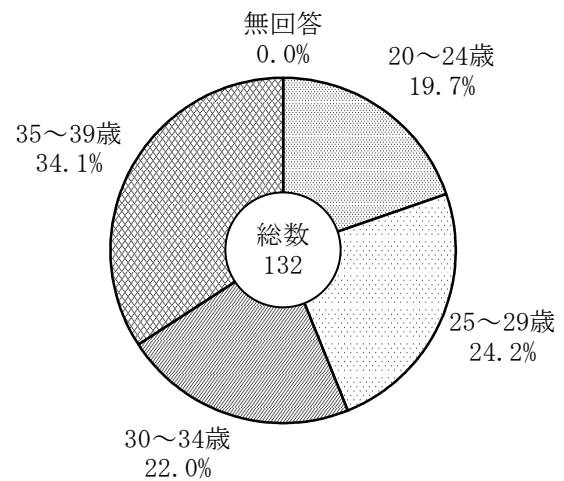
## (1) 性別

性別については、「男性」(31.8%)、「女性」(68.2%) となっています。



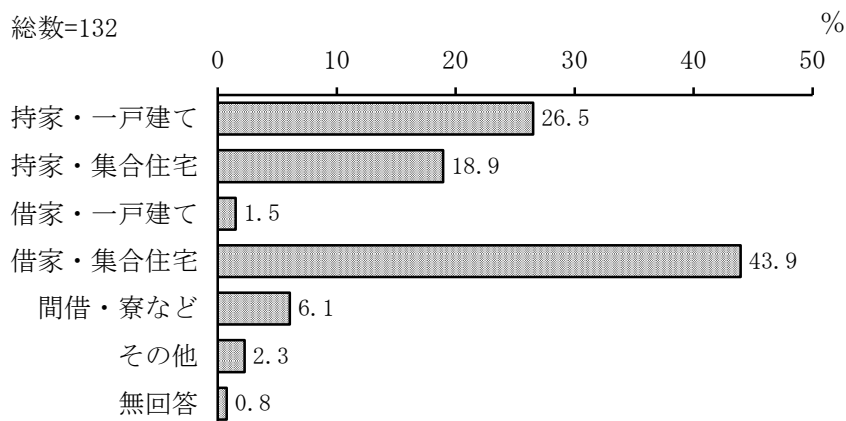
## (2) 年齢

年齢については、「35～39歳」(34.1%)、次いで「25～29歳」(24.2%)、「30～34歳」(22.0%)、「20～24歳」(19.7%) となっています。



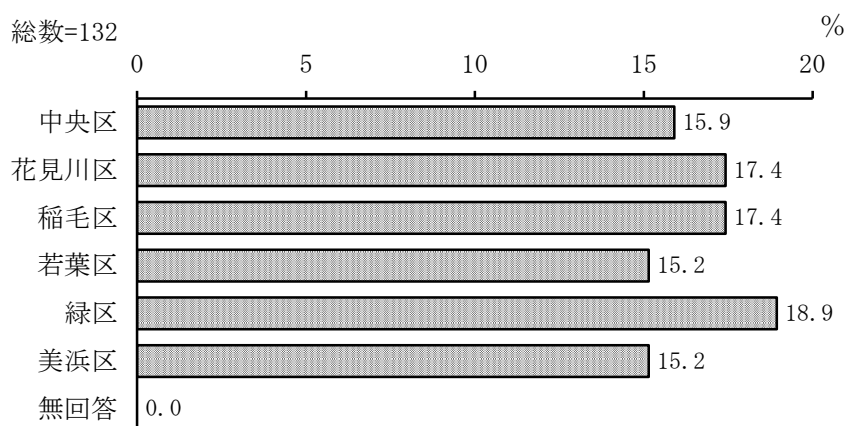
## (3) 居住形態

現在の居住形態については、「借家・集合住宅」(43.9%) が最も多く、次いで「持家・一戸建て」(26.5%)、「持家・集合住宅」(18.9%) となっています。



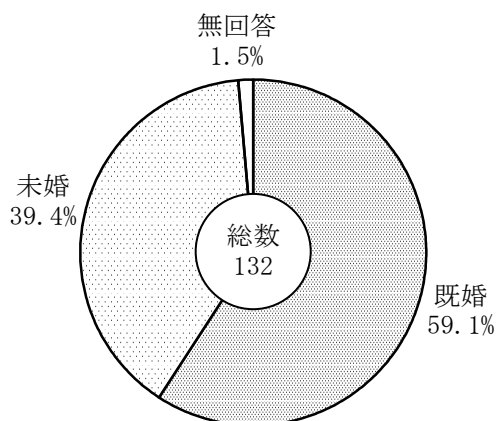
#### (4) 居住地域

住んでいる地域については、「緑区」(18.9%)、次いで「花見川区」と「稲毛区」(17.4%)となっています。



#### (5) 既婚・未婚の状況

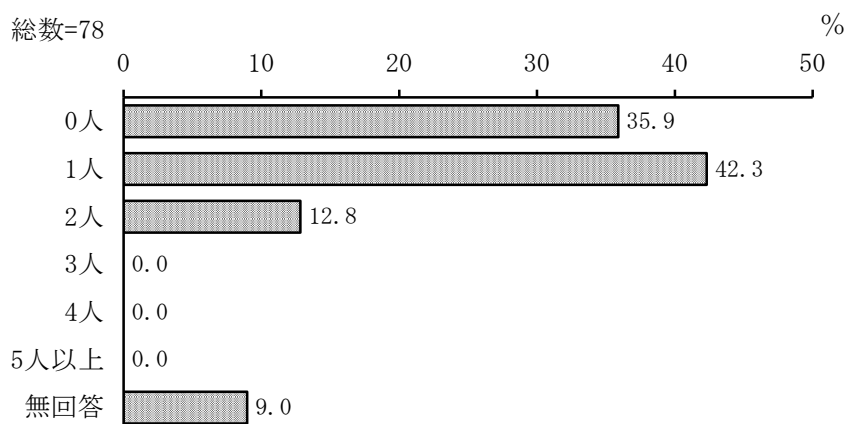
既婚か、未婚かについては、「既婚」(59.1%)、「未婚」(39.4%)となっています。



#### (6) 既婚者の子どもの人数

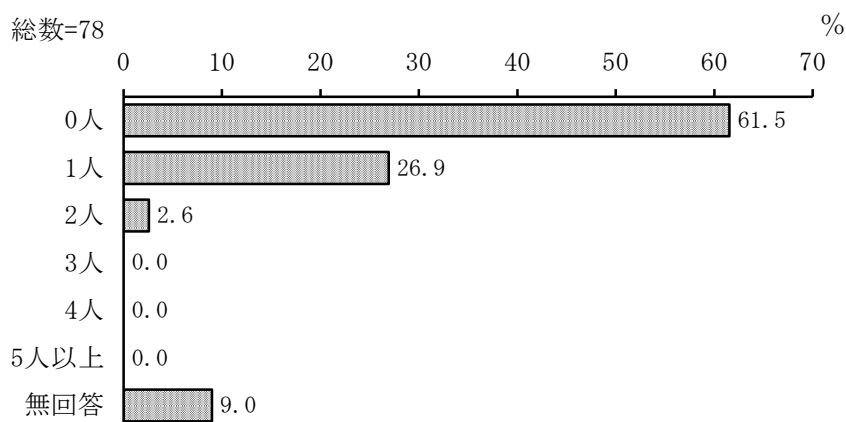
##### ①既婚者の子どもの人数【小学校入学前】

既婚者の小学校入学前の子どもの人数については、「1人」(42.3%)が最も多く、次いで「0人」(35.9%)、「2人」(12.8%)となっています。



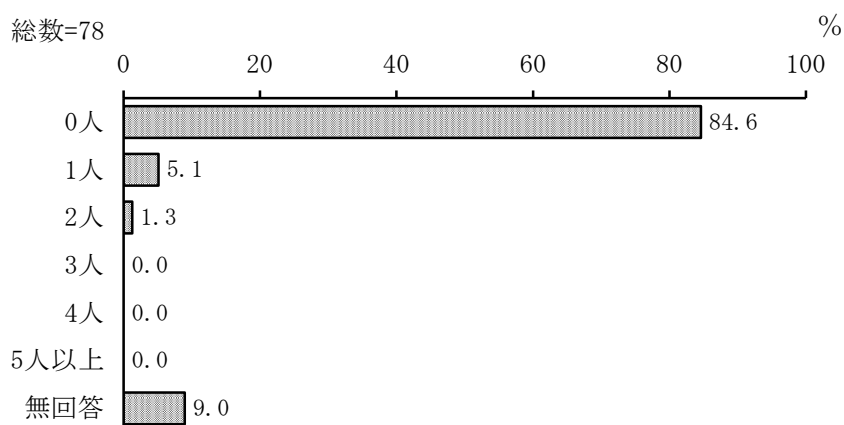
## ②既婚者の子どもの人数【小学生】

既婚者の小学生の子どもの人数については、「0人」(61.5%)が最も多く、次いで「1人」(26.9%)、「2人」(2.6%)となっています。



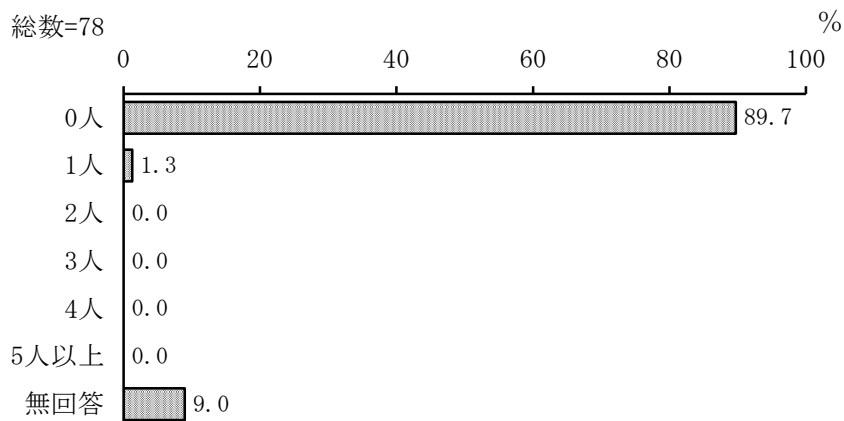
## ③既婚者の子どもの人数【中学生】

既婚者の中学生の子どもの人数については、「0人」(84.6%)が特に多く、次いで「1人」(5.1%)となっています。



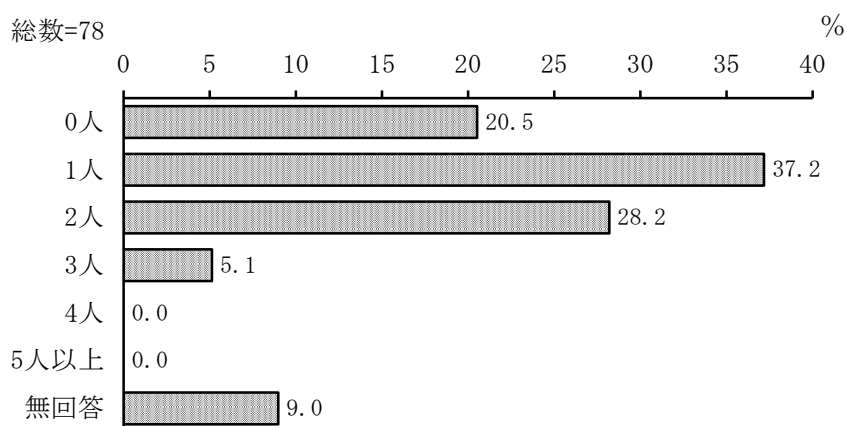
## ④既婚者の子どもの人数【高校生以上】

既婚者の高校生以上の子どもの人数については、「0人」(89.7%)が特に多くなっています。



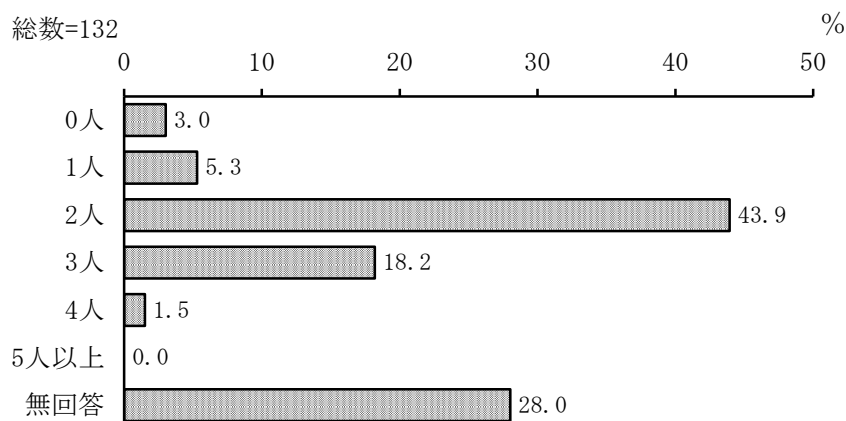
### ⑤既婚者の子どもの人数【合計】

既婚者の子どもの人数については、全部で「1人」(37.2%)が最も多く、次いで「2人」(28.2%)、「0人」(20.5%)となっています。



### (7) 理想の子どもの人数

理想の子どもの人数については、「2人」(43.9%)が最も多く、次いで「3人」(18.2%)、「1人」(5.3%)となっています。



総数	有効回答数	平均	標準偏差	最小値	最大値
132	95	2.15	0.76	0	4

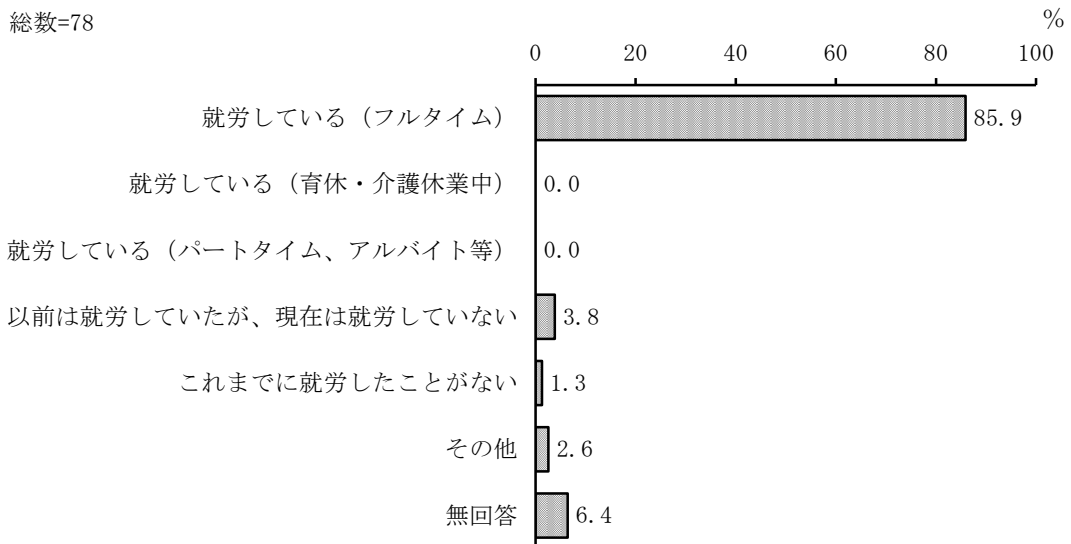
## 2 既婚者の仕事、結婚に関する意識について

### (1) 現在の就労状況

#### A 夫

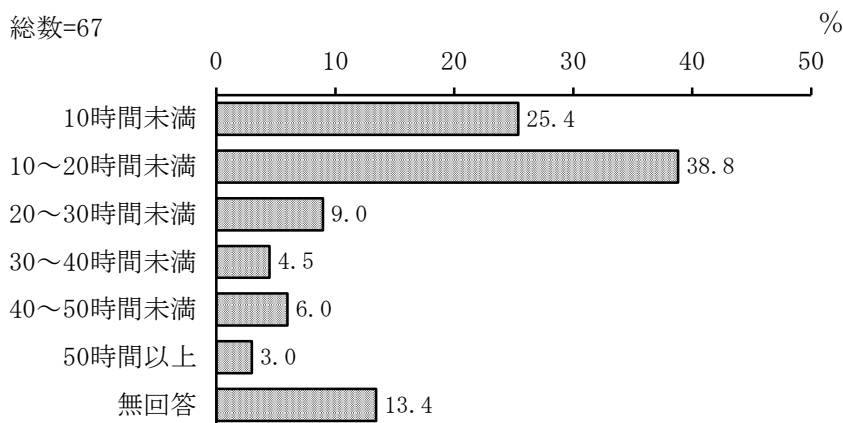
##### ①夫の就労状況

現在の夫の就労状況については、「就労している（フルタイム）」（85.9%）が特に多くなっています。



##### ②フルタイムで就労している夫の残業時間

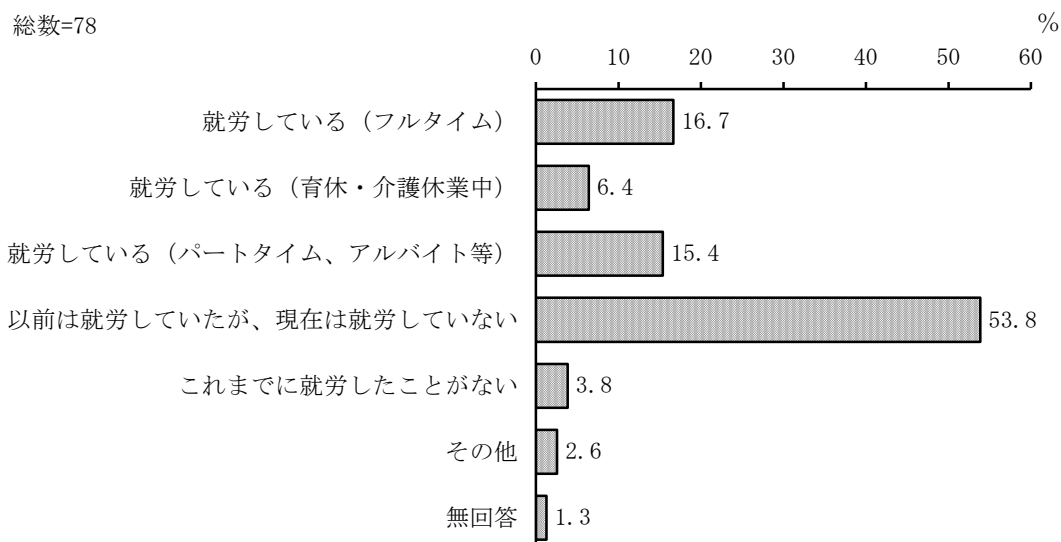
フルタイムで就労している夫の1週当たりの平均残業時間については、「10～20時間未満」（38.8%）が最も多く、次いで「10時間未満」（25.4%）、「20～30時間未満」（9.0%）が多くなっています。



## B 妻

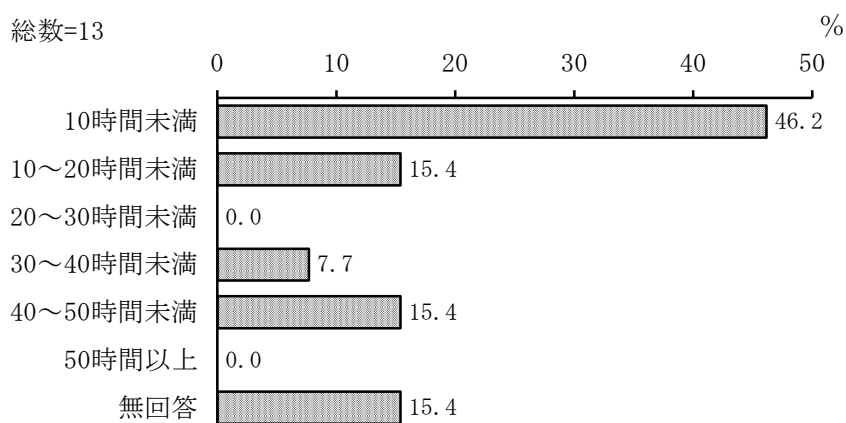
### ①妻の就労状況

現在の妻の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(53.8%)が最も多く、次いで「就労している(フルタイム)」(16.7%)、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」(15.4%)が多くなっています。



### ②フルタイムで就労している妻の残業時間

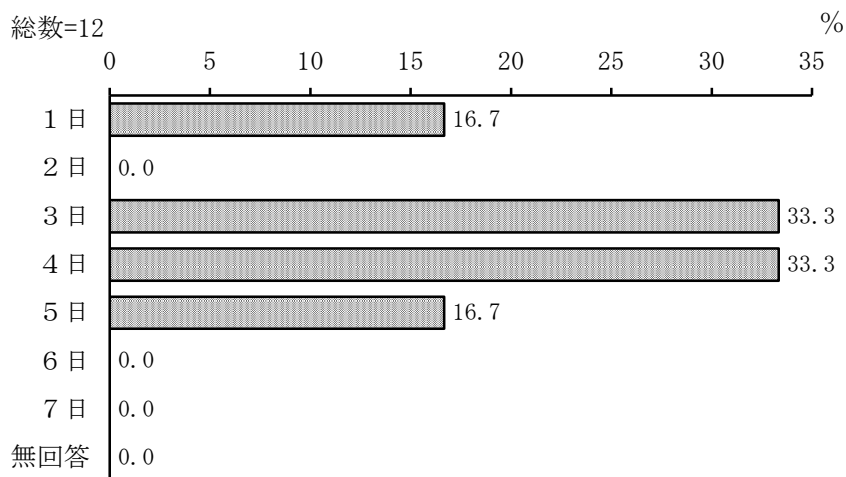
フルタイムで就労している妻の1週当たりの平均残業時間については、「10時間未満」(46.2%)が最も多く、次いで「10～20時間未満」と「40～50時間未満」(15.4%)となっています。





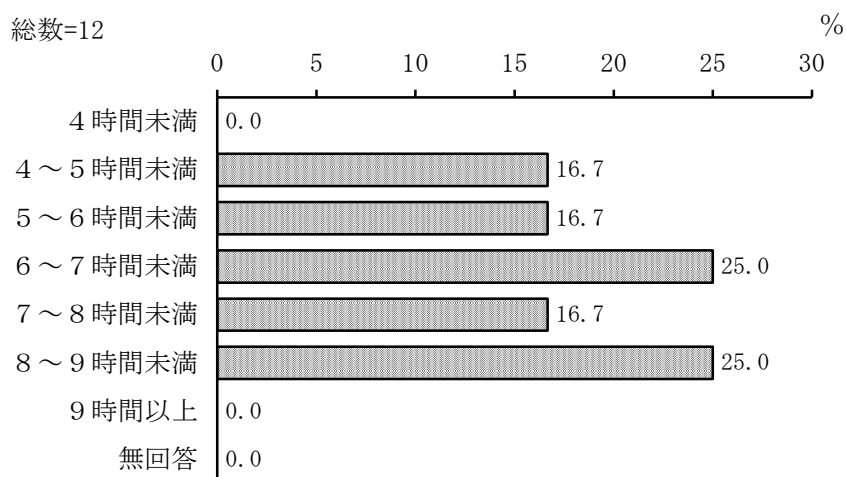
### ③パートタイム、アルバイト等で就労している妻の就労日数

パートタイム、アルバイト等で就労している妻の1週当たりの就労日数については、「3日」と「4日」(33.3%)が最も多く、次いで「1日」と「5日」(16.7%)となっています。



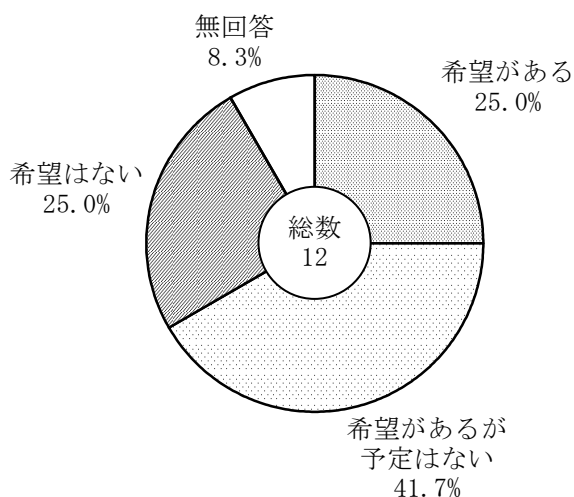
### ④パートタイム、アルバイト等で就労している妻の就労時間

パートタイム、アルバイト等で就労している妻の1日当たりの就労時間については、「6～7時間未満」と「8～9時間未満」(25.0%)が最も多く、次いで「4～5時間未満」と「5～6時間未満」と「7～8時間未満」(16.7%)となっています。



### ⑤パートタイム、アルバイト等で就労している妻の転換希望

パートタイム、アルバイト等で就労している妻が、就労日数を増やすことやフルタイムへの転換希望については、「希望があるが予定はない」(41.7%)が最も多く、次いで「希望がある」と「希望はない」(25.0%)となっています。

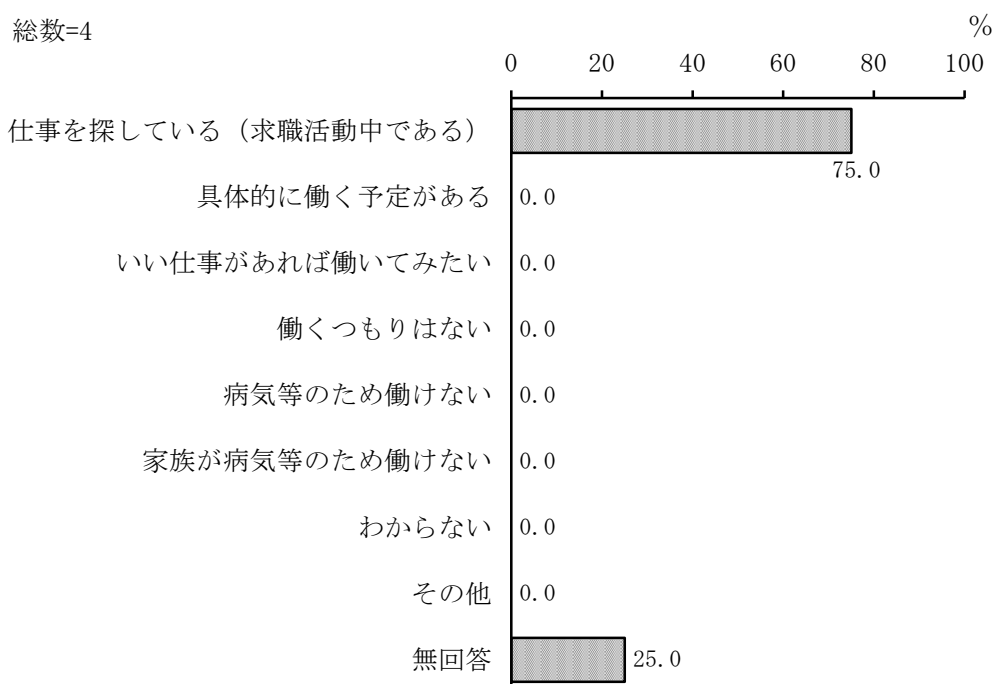


## (2) 現在就労していない夫や妻の働く意思

【(1)の①で「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまでに就労したことがない」と答えた方に伺いました】

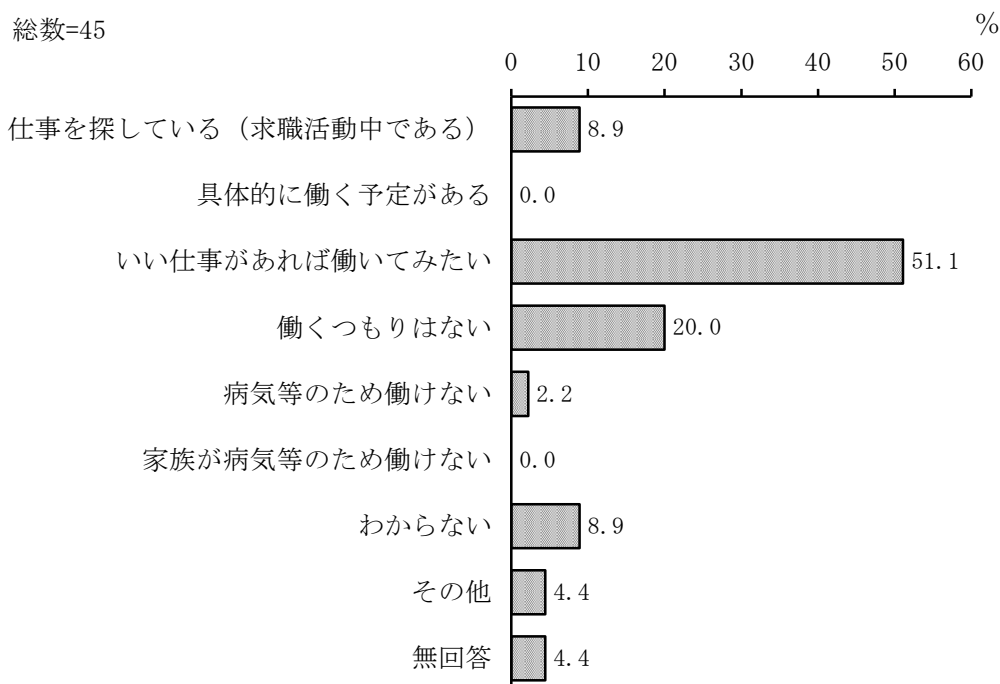
### ①現在就労していない夫の働く意思

夫が現在就労していない場合の働く意思については、「仕事を探している（求職活動中である）」(75.0%)となっています。



## ②現在就労していない妻の働く意思

妻が現在就労していない場合の働く意思については、「いい仕事があれば働いてみたい」(51.1%)が最も多く、次いで「働くつもりはない」(20.0%)となっています。

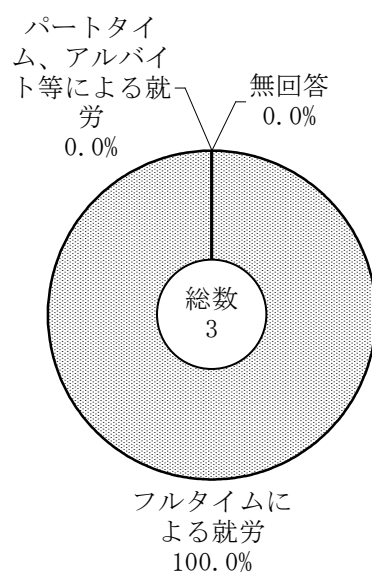


## (3) 希望する就労形態

【(2)で「仕事を探している」「具体的に働く予定がある」「いい仕事があれば働いてみたい」と答えた方に伺いました】

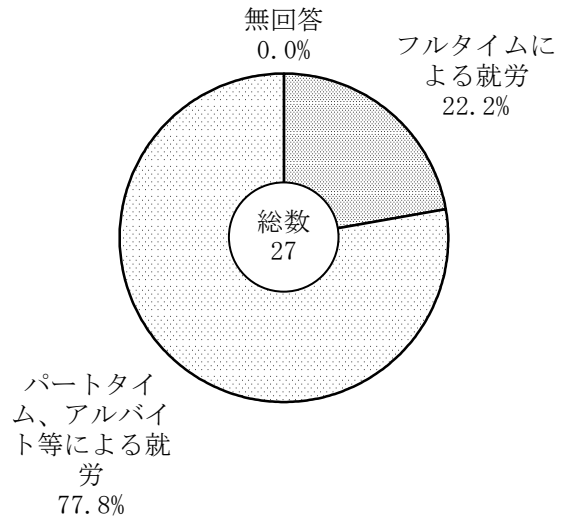
### ①夫の希望する就労形態

働く意思のある夫が希望する就労形態については、「フルタイムによる就労」(100%)となっています。



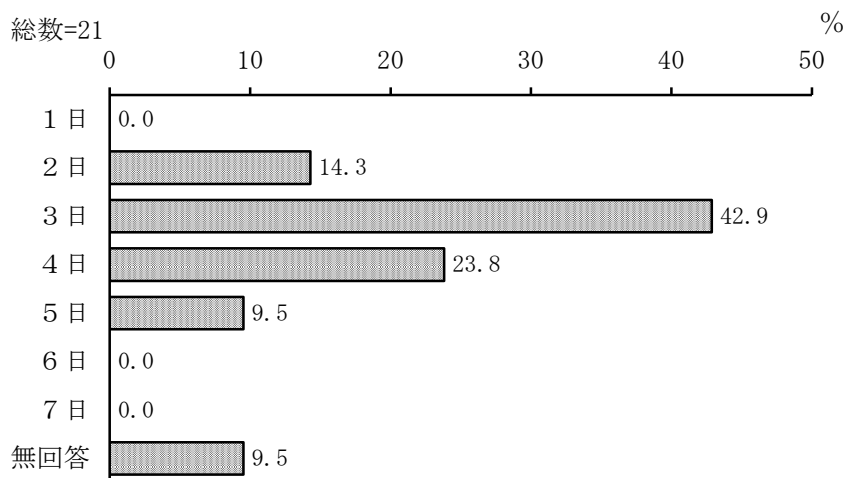
### ②妻が希望する就労形態

働く意思のある妻が希望する就労形態については、「パートタイム、アルバイト等による就労」(77.8%)、「フルタイムによる就労」(22.2%)となっています。



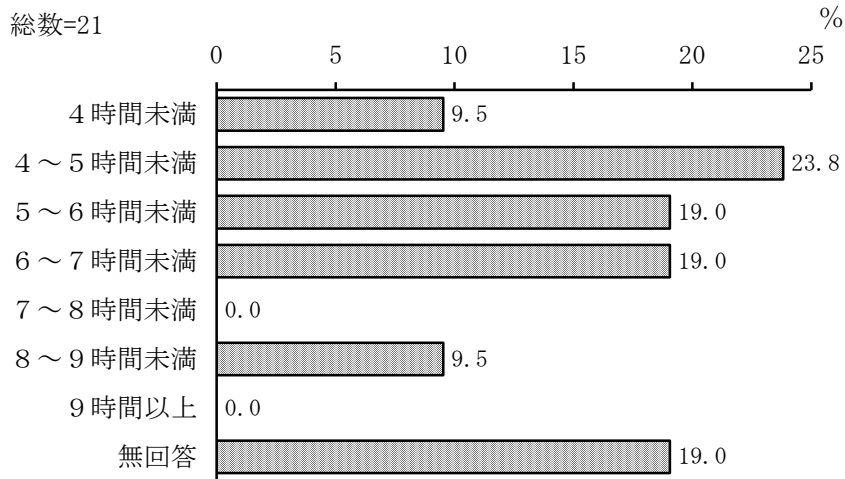
### ③パートタイム、アルバイト等を希望する妻の就労日数

②でパートタイム、アルバイト等を希望する妻の1週当たりの就労日数については、「3日」(42.9%)が最も多く、次いで「4日」(23.8%)、「2日」(14.3%)、「5日」(9.5%)となっています。



④パートタイム、アルバイト等を希望する妻の就労時間

②でパートタイム、アルバイト等を希望する妻の1日当たりの就労時間については、「4時間以上～5時間未満」(23.8%)が最も多く、次いで「5時間以上～6時間未満」と「6時間以上～7時間未満」(19.0%)、となっています。

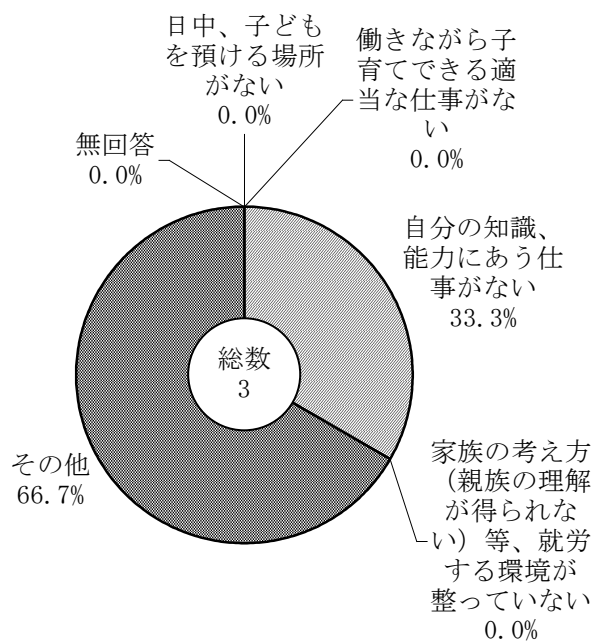


(4) 就労希望がありながら働いていない理由

【(2)で「仕事を探している」「具体的に働く予定がある」「いい仕事があれば働いてみたい」と答えた方に伺いました】

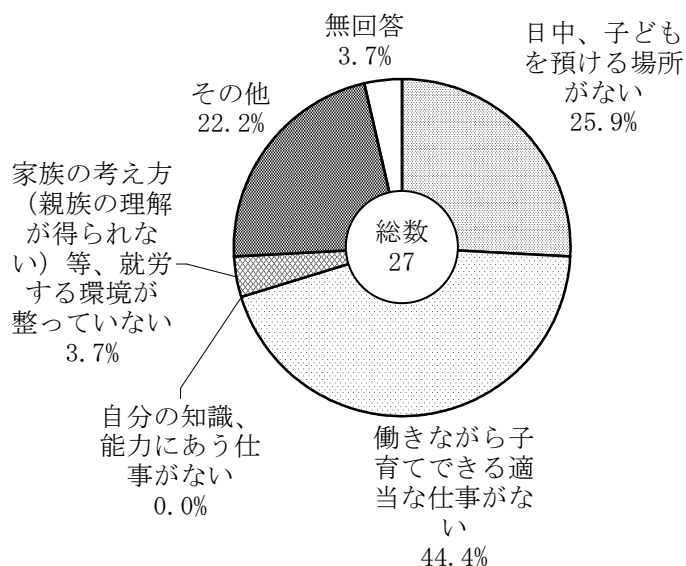
①就労希望がありながら、夫が現在働いていない理由

就労希望がありながら、夫が現在働いていない理由については、「自分の知識、能力にあう仕事がない」(33.3%)となっています。



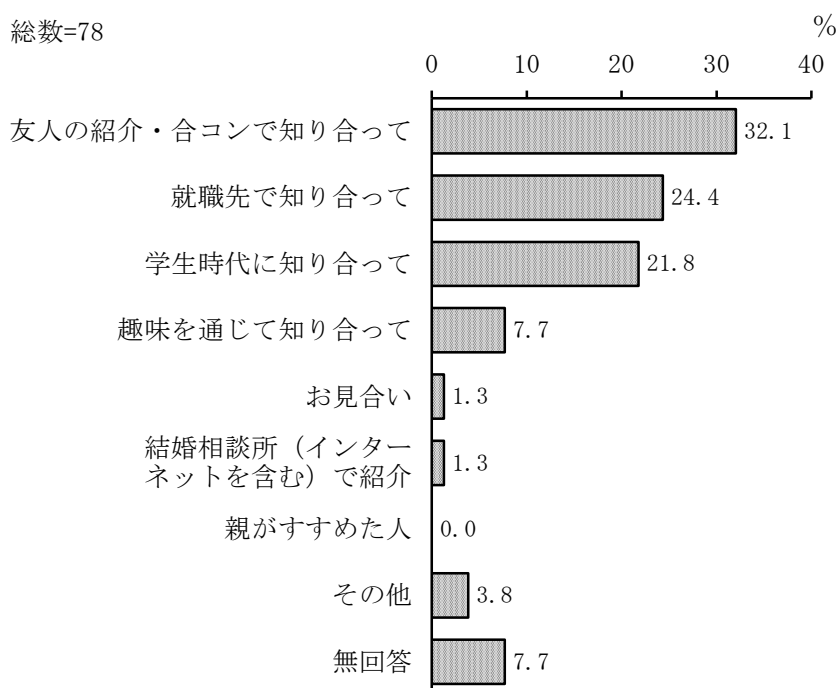
## ②就労希望がありながら、妻が現在働いていない理由

就労希望がありながら、妻が現在働いていない理由については、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」(44.4%)が最も多く、次いで「日中、子どもを預ける場所がない」(25.9%)が多くなっています。



## (5) 結婚したきっかけ

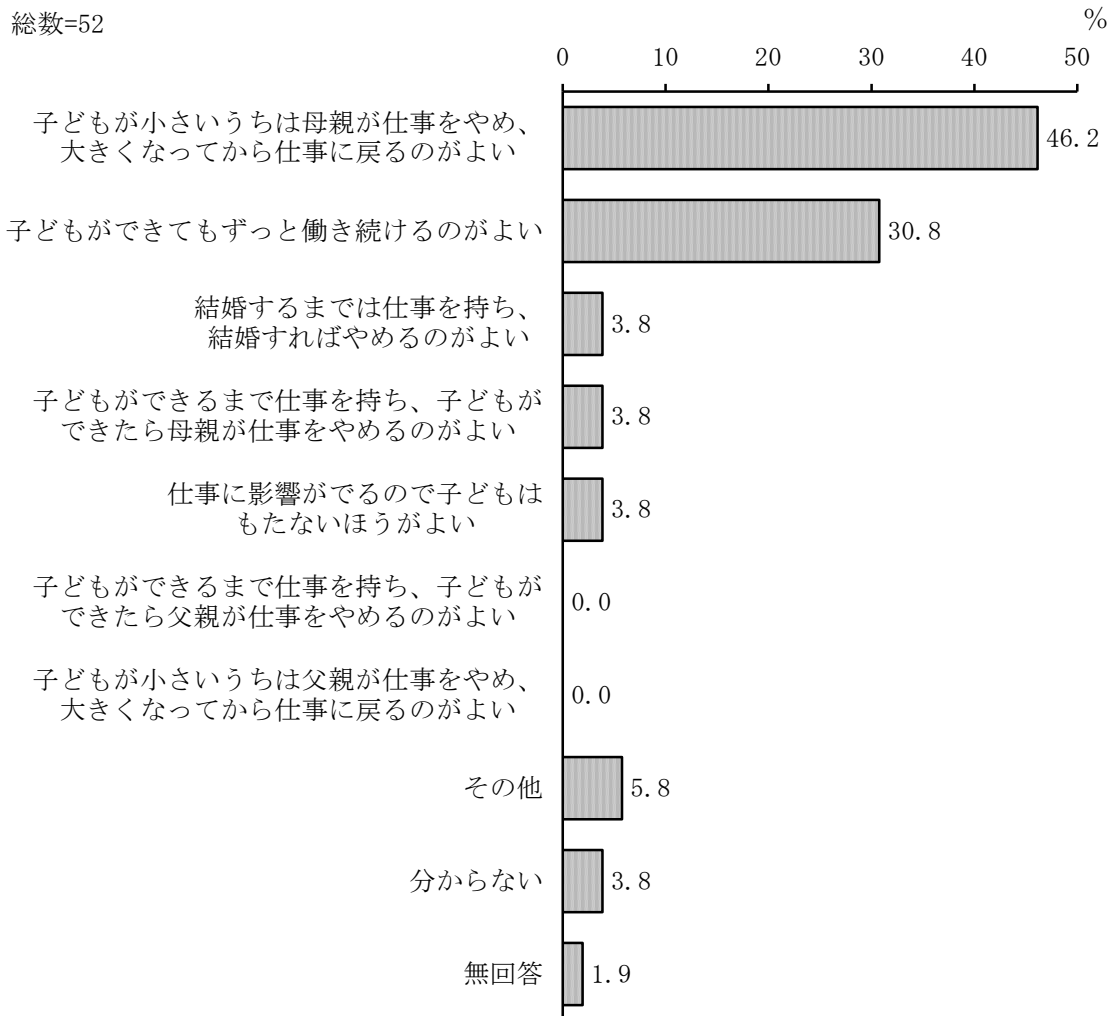
どのようなきっかけで結婚したかについては、「友人の紹介・合コンで知り合って結婚した」(32.1%)が最も多く、次いで「就職先で知り合って結婚した」(24.4%)、「学生時代に知り合って結婚した」(21.8%)が多くなっています。



### 3 未婚者の仕事、結婚、育児に関する意識について

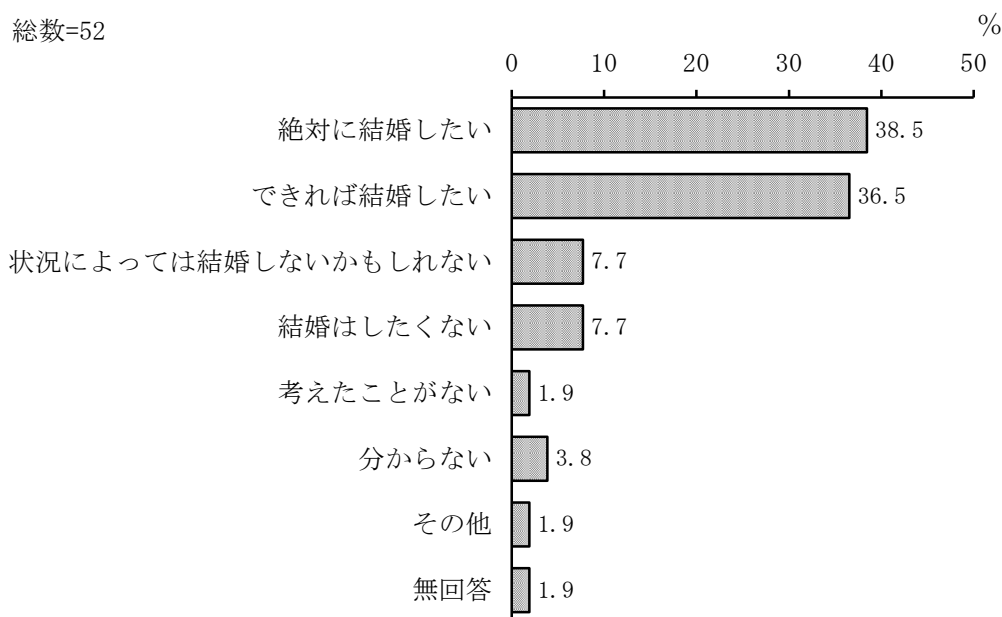
#### (1) 仕事を持つことについて

仕事を持つことについてどのように考えるかは、「子どもが小さいうちは母親が仕事をやめ、大きくなってから仕事に戻るのがよい」(46.2%)が最も多く、次いで「子どもができてずっと働き続けるのがよい」(30.8%)が多くなっています。



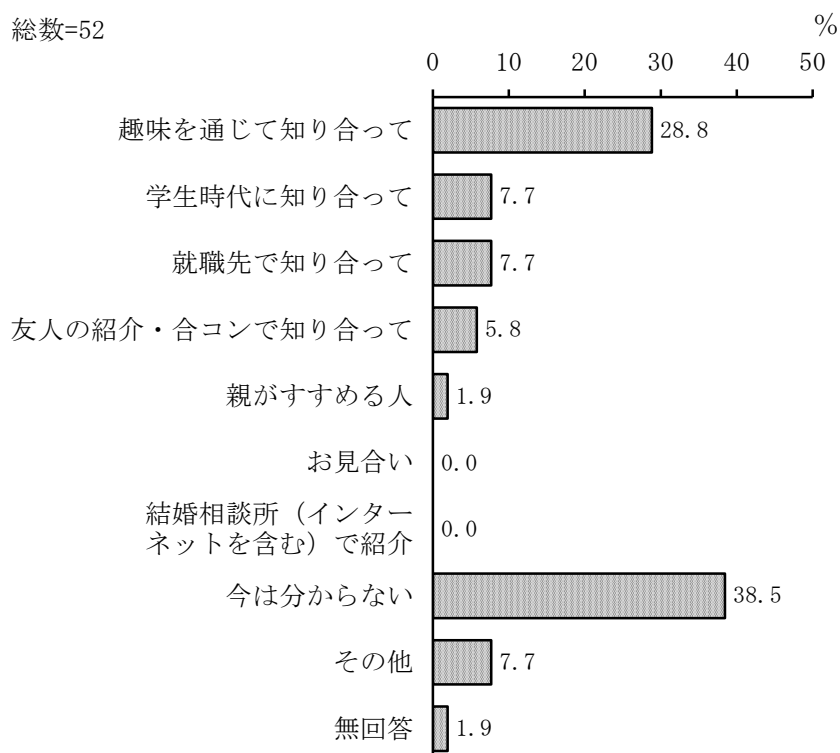
## (2) 将来の結婚願望

将来結婚したいかについては、「絶対に結婚したい」(38.5%)が最も多く、次いで「できれば結婚したい」(36.5%)が多くなっています。



## (3) 理想的な結婚のきっかけ

どのようなきっかけで結婚したいかについては、「趣味を通じて知り合って結婚したい」(28.8%)が最も多く、次いで「学生時代に知り合って結婚したい」と「就職先で知り合って結婚したい」(7.7%)となっています。また、「今は分からないが」(38.5%)となっています。

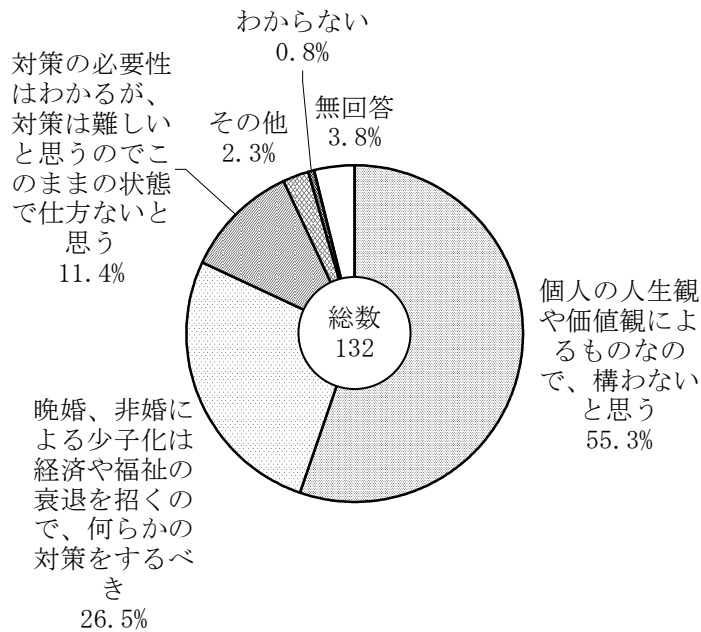




## 4 結婚観、大人に関する意識について

### (1) 晩婚、非婚について

晩婚、非婚についてどのように考えるかは、「個人の人生観や価値観によるものなので、構わないと思う」(55.3%)が最も多く、次いで「晩婚、非婚による少子化は経済や福祉の衰退を招くので、何らかの対策をするべき」(26.5%)、「対策の必要性はわかるが、対策は難しいと思うのでこのままの状態では構わないと思う」(11.4%)となっています。



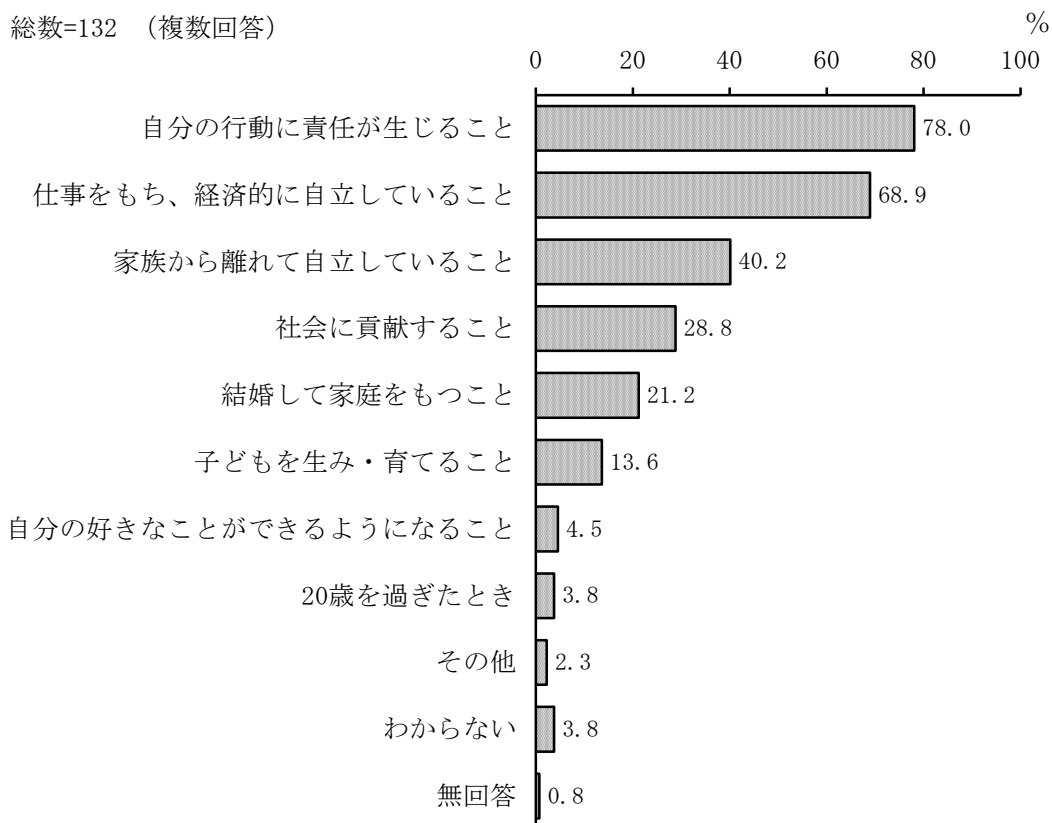
性別との関係でみると、「個人の人生観や価値観によるものなので、構わないと思う」という回答は、女性が男性より 14.8 ポイント高くなっています。「晩婚、非婚による少子化は経済や福祉の衰退を招くので、何らかの対策をとるべき」という回答は、男性が女性より 17.0 ポイント高くなっています。

#### 【晩婚、非婚についてと性別】

	全体	個人の人生観や価値観によるものなので、構わないと思うもの	晩婚、非婚による少子化は経済や福祉の衰退を招くので、何らかの対策をするべき	対策の必要性はわかるが、対策は難しいと思うのでこのままの状態では構わないと思う	その他	わからない	無回答
全体	132 100.0	73 55.3	35 26.5	15 11.4	3 2.3	1 0.8	5 3.8
性別	男性	42 100.0	19 45.2	16 38.1	5 11.9	-	1 2.4
	女性	90 100.0	54 60.0	19 21.1	10 11.1	3 3.3	- 4.4
	無回答	-	-	-	-	-	-
		*	*	*	*	*	*

## (2) 「大人になる」ことの意味

「大人になる」とはどのようなことだと考えるかについては、「自分の行動に責任が生じること」(78.0%)が最も多く、次いで「仕事をもち、経済的に自立していること」(68.9%)、「家族から離れて自立していること」(40.2%)が多くなっています。



性別との関係でみると、「家族から離れて自立していること」「仕事をもち、経済的に自立していること」「自分の行動に責任が生じること」という回答は、女性が男性より10ポイント以上高くなっています。

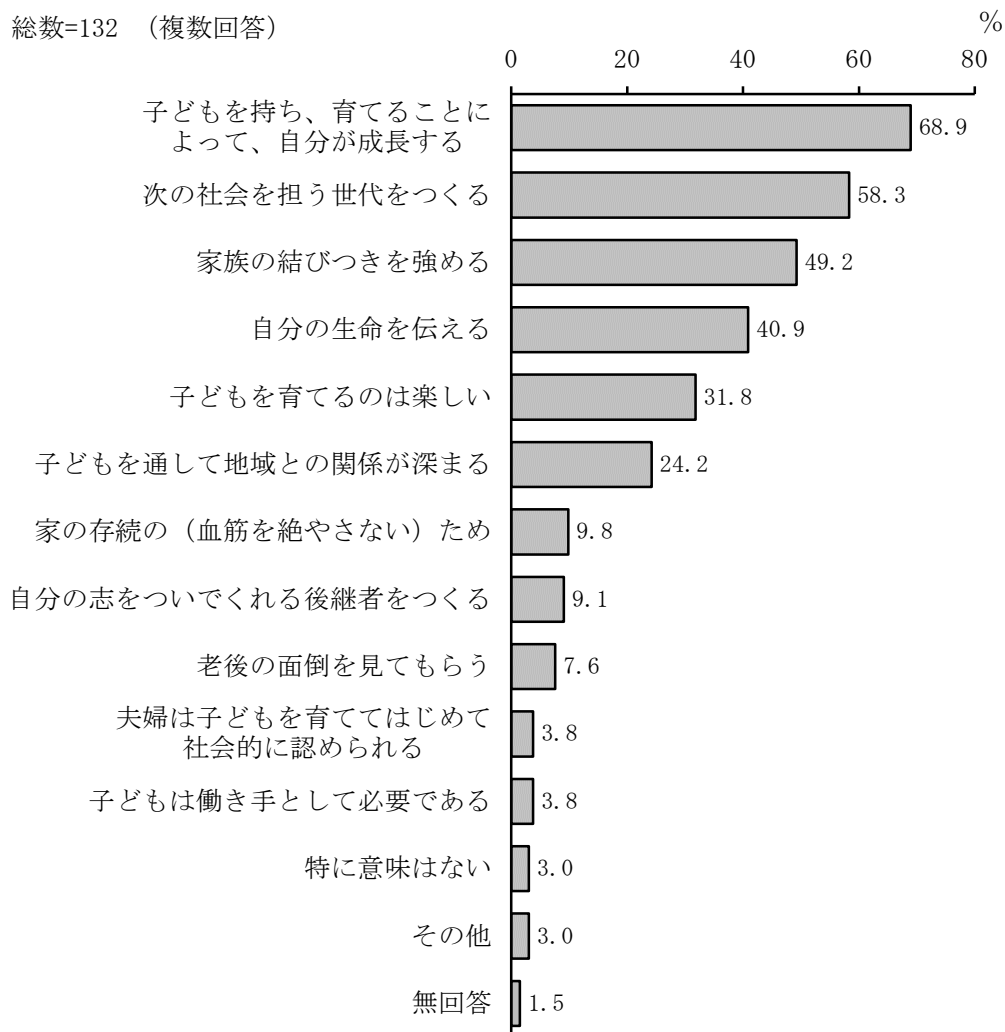
### 【「大人になる」ことの意味と性別】

	全体	家族から離れて自立していること	結婚して家庭をもつこと	社会に貢献すること	仕事をもち、経済的に自立していること	自分の行動に責任が生じること	子どもを生み・育てること	自分の好きなことができるようになること	その他	20歳を過ぎたとき	わからない	無回答
全体	132 100.0	53 40.2	28 21.2	38 28.8	91 68.9	103 78.0	18 13.6	6 4.5	3 2.3	5 3.8	5 3.8	1 0.8
性別												
男性	42 100.0	14 33.3	11 26.2	11 26.2	25 59.5	28 66.7	8 19.0	1 2.4	1 2.4	1 2.4	1 2.4	-
女性	90 100.0	39 43.3	17 18.9	27 30.0	66 73.3	75 83.3	10 11.1	5 5.6	2 2.2	4 4.4	4 4.4	1 1.1
無回答	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

## 5 出産・育児に対する意識について

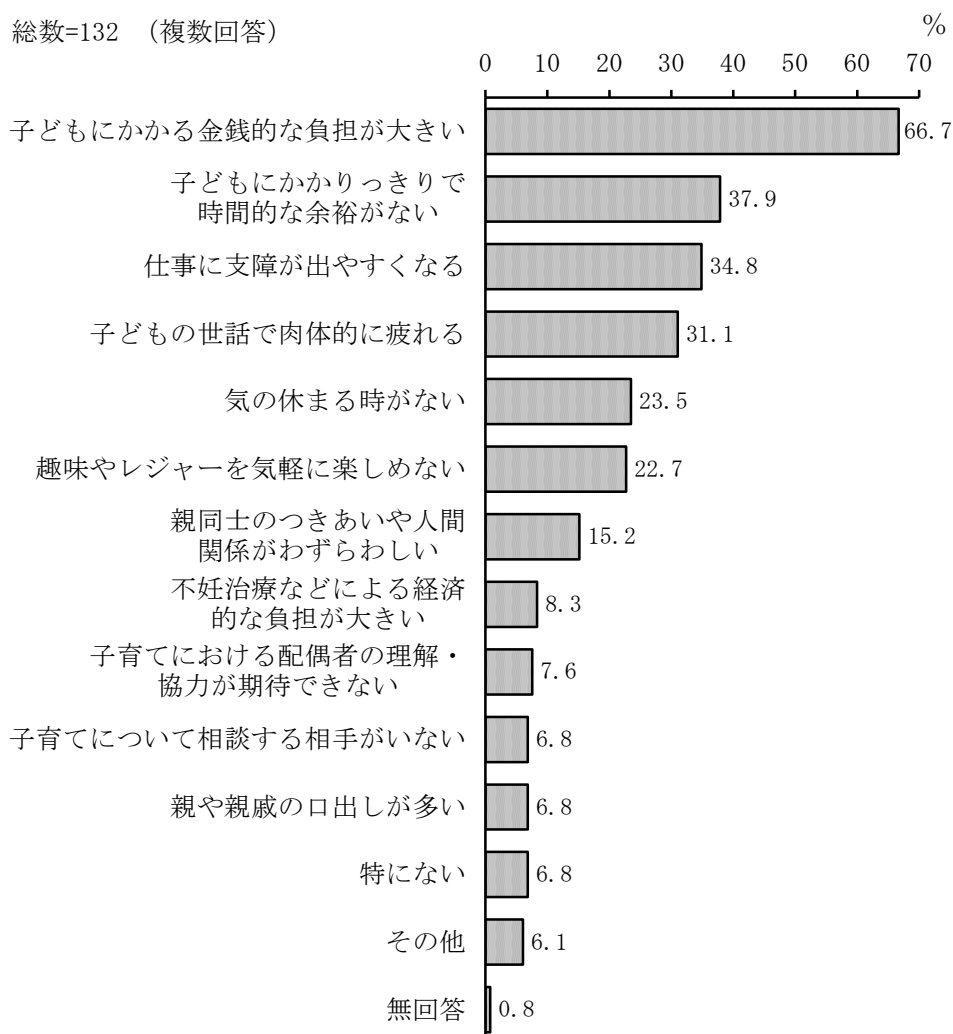
### (1) 子どもをもつことの意味

子どもをもつことの意味については、「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」(68.9%)が最も多く、次いで「次の社会を担う世代をつくる」(58.3%)、「家族の結びつきを強める」(49.2%)が多くなっています。



## (2) 子どもをもつことについての不安・負担

子どもをもつことについて不安・負担と思うことは、「子どもにかかる金銭的な負担が大きい」(66.7%)が最も多く、次いで「子どもにかかりっきりで時間的な余裕がない」(37.9%)、「仕事に支障が出やすくなる」(34.8%)となっています。



性別との関係でみると、ほとんどの回答で女性が男性より不安・負担と思う割合が高くなっています。特に「仕事に支障が出やすくなる」という回答は 23.2 ポイント、「趣味やレジャーを気軽に楽しめない」は 12.4 ポイント、「親同士のつきあいや人間関係がわずらわしい」は 11.8 ポイント、「子育てにおける配偶者の理解・協力が期待できない」は 11.1 ポイント、「子育てについて相談する相手がいない」は 10.0 ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっています。

### 【子どもを持つことについての不安・負担と性別】

	全体	子どもの体的に疲れる	子育てに余裕がない	子どもの時間にかかりすぎ	気の休まる時がない	趣味やレジャーを気軽に楽しめない	仕事に支障が出やすくなる	親同士のつきあいや人間関係がわずらわしい	配偶者の理解・協力が期待できない	子育てにおける相談する相手がいない	親や親戚の口出しが多い
	全体 132 100.0	41 31.1	50 37.9	31 23.5	30 22.7	46 34.8	20 15.2	10 7.6	9 6.8	9 6.8	
性別	男性	42 100.0	12 28.6	14 33.3	10 23.8	6 14.3	8 19.0	3 7.1	-	-	1 2.4
	女性	90 100.0	29 32.2	36 40.0	21 23.3	24 26.7	38 42.2	17 18.9	10 11.1	9 10.0	8 8.9
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

	銭的な負担が大きい	子どもにかかる大きな負担がある	不妊治療などによる経済的な負担が大きい	特にない	その他	無回答
	全体 88 66.7	11 8.3	9 6.8	8 6.1	1 0.8	
性別	男性	27 64.3	2 4.8	3 7.1	4 9.5	1 2.4
	女性	61 67.8	9 10.0	6 6.7	4 4.4	-
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *

## 6 子育て支援に対する実態や意識について

### (1) 市の子育て支援策

#### ①市の子育て支援策【A 認知状況】

現在、市が行なっている子育て支援策の中で、「知っている」と「聞いたことはある」を合わせた回答は、「乳幼児医療費助成・児童手当」(76.5%)が最も多く、次いで「子どもルーム」(69.0%)、「教育相談」(63.6%)となっています。一方、「知らない」は、「ショートステイ」(77.3%)が最も多く、次いで「トワイライトステイ」(75.8%)、「ファミリー・サポート・センター」(68.9%)となっています。

総数=132

単位:% (5%未満非表示)

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
パパ・ママ子育て教習所・育児教室	21.2	18.9	56.8	
家庭児童相談室・保育所での育児相談	25.8	31.8	40.9	
子育てハンドブック・子育て支援情報提供ホームページ	31.8	15.9	50.8	
育児サークルの支援	29.5	18.9	49.2	
子育てリラックス館、地域子育て支援センター、子育て支援館	32.6	18.9	46.2	
一時・特定保育	31.8	12.9	53.0	
病児・病後児保育	25.8	15.2	56.8	
エンゼルヘルパー	28.8	13.6	55.3	
乳幼児医療費助成・児童手当	64.4		12.1	22.0
幼稚園就園奨励費補助	37.9	15.2	44.7	
保育ママ	28.8	15.2	53.8	
ファミリー・サポート・センター	17.4	12.1	68.9	
ショートステイ	9.8	11.4	77.3	
トワイライトステイ	9.1	13.6	75.8	
子育てサポーター	22.7	19.7	55.3	
公民館での子ども向け講座	27.3	24.2	46.2	
教育相談	31.8	31.8	34.1	
子どもルーム	52.3		16.7	28.8
放課後子ども教室	31.1	17.4	49.2	

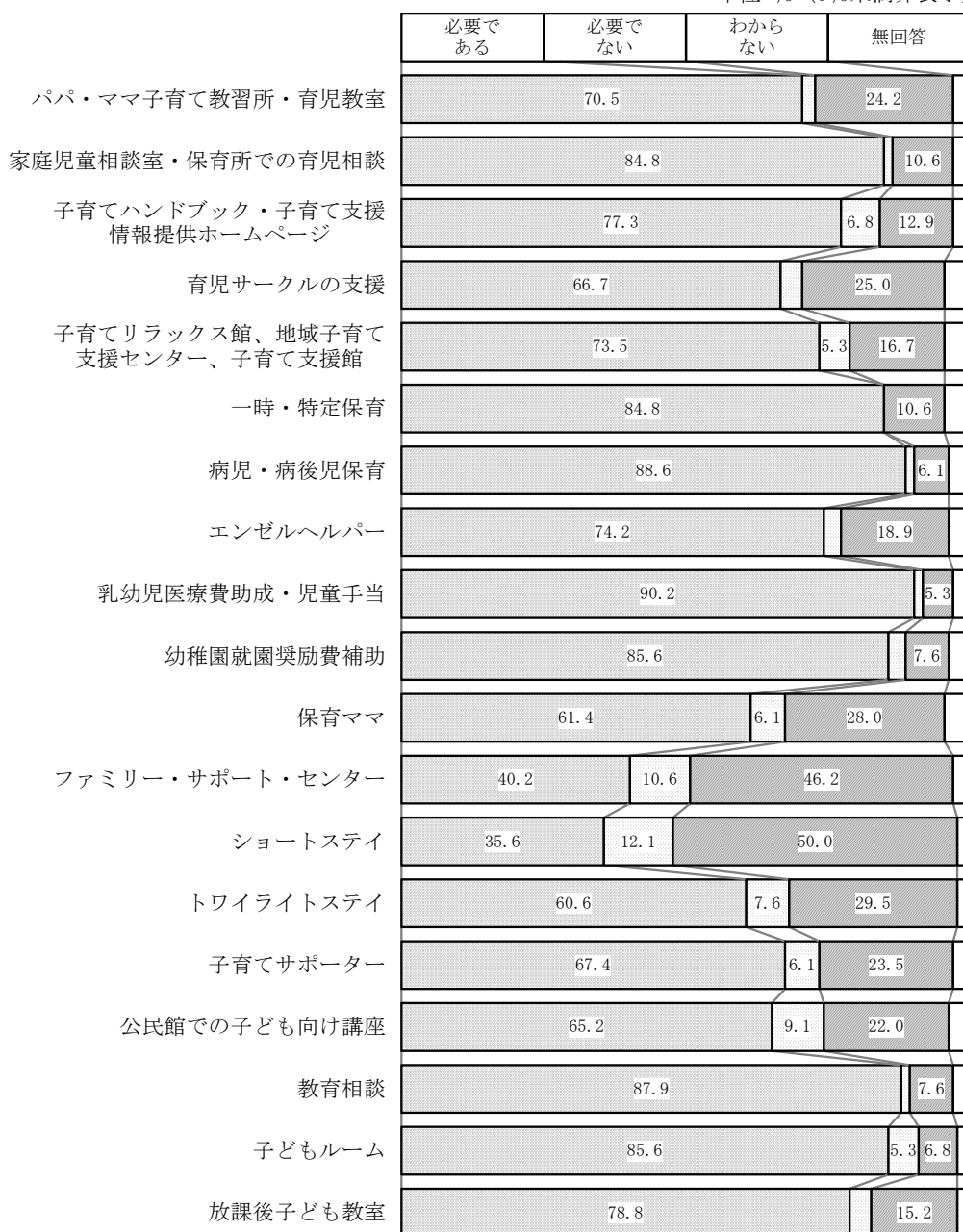
(注) 5%未満数値：パパ・ママ子育て教習所・育児教室(3.0) 家庭児童相談室・保育所での育児相談(1.5) 子育てハンドブック・子育て支援情報提供ホームページ(1.5) 育児サークルの支援(2.3) 子育てリラックス館、地域子育て支援センター、子育て支援館(2.3) 一時・特定保育(2.3) 病児・病後児保育(2.3) エンゼルヘルパー(2.3) 乳幼児医療費助成・児童手当(1.5) 幼稚園就園奨励費補助(2.3) 保育ママ(2.3) ファミリー・サポート・センター(1.5) ショートステイ(1.5) トワイライトステイ(1.5) 子育てサポーター(2.3) 公民館での子ども向け講座(2.3) 教育相談(2.3) 子どもルーム(2.3) 放課後子ども教室(2.3)

## ②市の子育て支援策【B 必要性】

現在、市が行なっている子育て支援策の中で、「必要である」は、「乳幼児医療費助成・児童手当」(90.2%)が最も多く、次いで「病児・病後児保育」(88.6%)、「教育相談」(87.9%)となっています。一方、「必要でない」は、「ショートステイ」(12.1%)が最も多く、次いで「ファミリー・サポート・センター」(10.6%)、「公民館での子ども向け講座」(9.1%)となっています。

総数=132

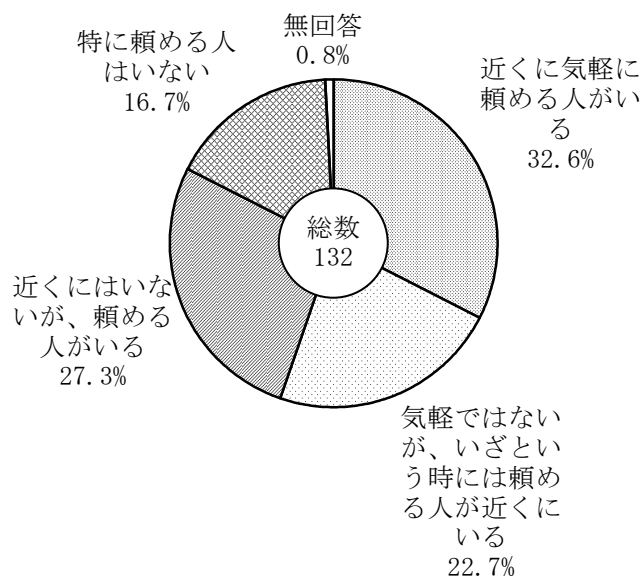
単位:% (5%未満非表示)



(注) 5%未満数値: パパ・ママ子育て教習所・育児教室(2.3 3.0) 家庭児童相談室・保育所での育児相談(1.5 3.0) 子育てハンドブック・子育て支援情報提供ホームページ(3.0) 育児サークルの支援(3.8 4.5) 子育てリラックス館、地域子育て支援センター、子育て支援館(4.5) 一時・特定保育(4.5) 病児・病後児保育(1.5 3.8) エンゼルヘルパー(3.0 3.8) 乳幼児医療費助成・児童手当(1.5 3.0) 幼稚園就園奨励費補助(3.0 3.8) 保育ママ(4.5) ファミリー・サポート・センター(3.0) ショートステイ(2.3) トワイライトステイ(2.3) 子育てサポーター(3.0) 公民館での子ども向け講座(3.8) 教育相談(1.5 3.0) 子どもルーム(2.3) 放課後子ども教室(3.8 2.3)

## (2) 配偶者以外の子育て援助・相談相手

配偶者以外で子育ての援助や相談に乗ってくれる親族・友人知人がいるかについては、「近くに気軽に頼める人がいる」(32.6%)が最も多く、次いで「近くにはいないが、頼める人がいる」(27.3%)、「気軽ではないが、いざという時には頼める人が近くにいる」(22.7%)、「特に頼める人はいない」(16.7%)となっています。



性別との関係でみると、「近くに気軽に頼める人がいる」という回答は、男性が女性より15.1ポイント高くなっています。「特に頼める人はいない」という回答は、女性が男性より10.5ポイント高くなっています。

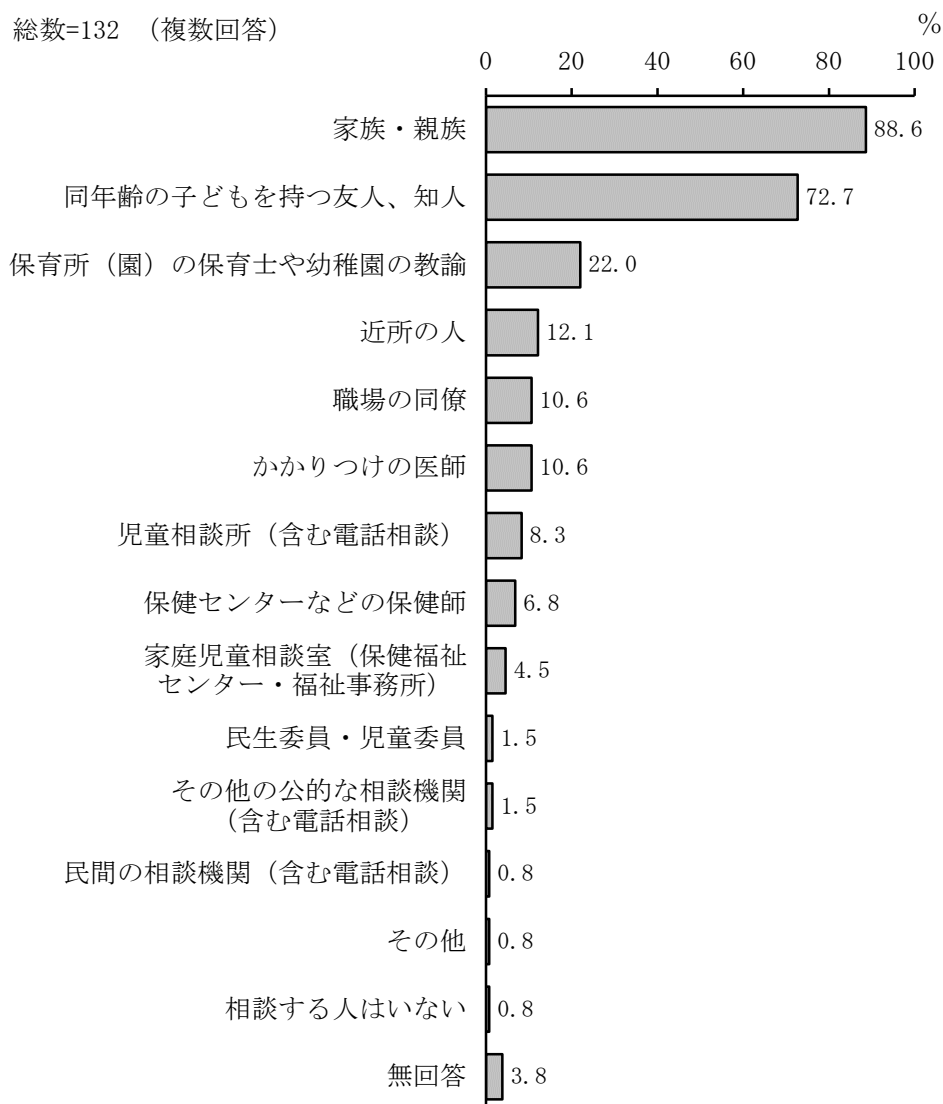
### 【配偶者以外の子育て援助・相談相手と性別】

		全体	近くに気軽に頼める人がいる	気軽ではないが、いざという時には頼める人が近くにいる	近くにはいないが、頼める人がいる	特に頼める人はいない	無回答
全体		132 100.0	43 32.6	30 22.7	36 27.3	22 16.7	1 0.8
性別	男性	42 100.0	18 42.9	8 19.0	11 26.2	4 9.5	1 2.4
	女性	90 100.0	25 27.8	22 24.4	25 27.8	18 20.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-
		*	*	*	*	*	*



### (3) 子育てに関する悩みや不安の望ましい相談相手

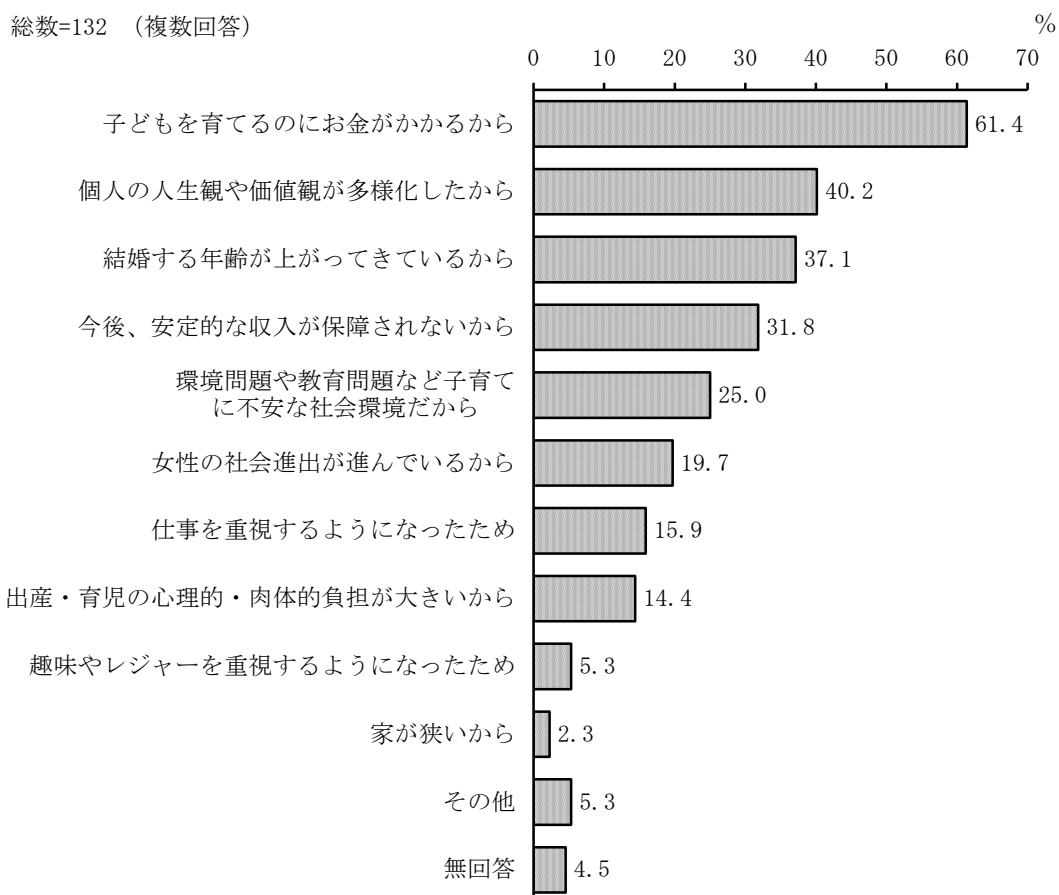
子育てに関する悩みや不安などを相談するのに望ましい相手については、「家族・親族」(88.6%)が最も多く、次いで「同年齢の子どもを持つ友人、知人」(72.7%)、「保育所(園)の保育士や幼稚園の教諭」(22.0%)となっています。



## 7 少子化の要因について

### (1) 少子化が進行している理由

現在、千葉市において少子化が進行している理由として考えられることは、「子どもを育てるのにお金がかかるから」(61.4%)が最も多く、次いで「個人の人生観や価値観が多様化したから」(40.2%)、「結婚する年齢が上がってきているから」(37.1%)が多くなっています。



性別との関係でみると、「結婚する年齢が上がってきているから」という回答は、女性が男性より 9.0 ポイント高くなっています。「個人の人生観や価値観が多様化したから」という回答は、男性が女性より 10.9 ポイント高くなっています。

【少子化進行の理由と性別】

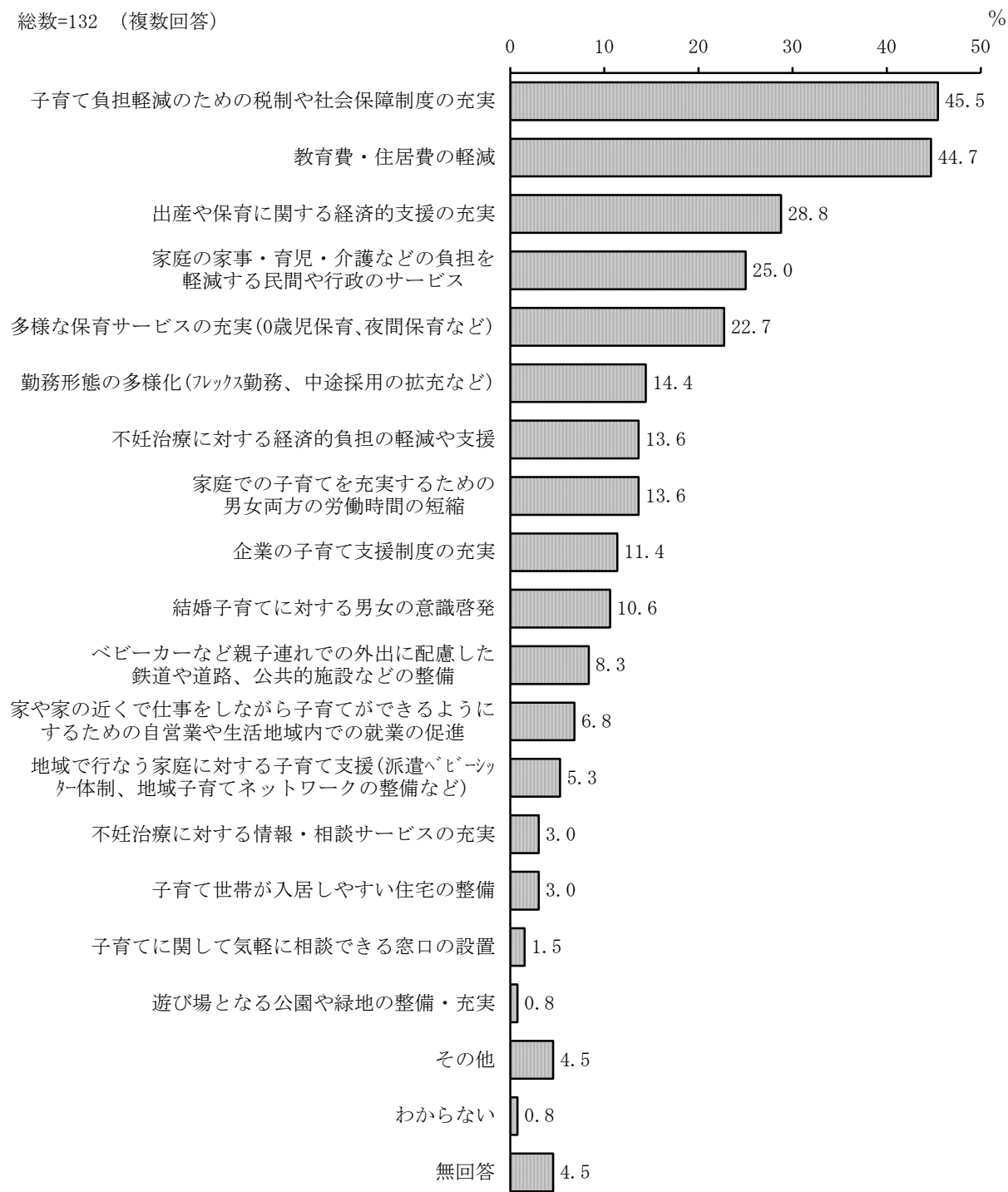
	全体	結婚する年齢が上がってきている	子どもを育てるのにお金がかかる	趣味やレジャーを重視するようになった	仕事(勤めや家業)を重視するようになった	出産・育児の心理的・肉体的負担が大きい	個人の人生観や価値観が多様化した	女性の社会進出が進んでいる	家が狭い	環境問題や教育問題など子育てに不安な社会環境	
	全体	132 100.0	49 37.1	81 61.4	7 5.3	21 15.9	19 14.4	53 40.2	26 19.7	3 2.3	33 25.0
性別	男性	42 100.0	13 31.0	27 64.3	3 7.1	6 14.3	7 16.7	20 47.6	6 14.3	1 2.4	11 26.2
	女性	90 100.0	36 40.0	54 60.0	4 4.4	15 16.7	12 13.3	33 36.7	20 22.2	2 2.2	22 24.4
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

	入今 が後、 保障 され ない 収	その他	無 回 答	
	全体	42 31.8	7 5.3	6 4.5
性別	男性	16 38.1	2 4.8	1 2.4
	女性	26 28.9	5 5.6	5 5.6
	無回答	- *	- *	- *

## (2) 少子化を抑えるために必要な対応

少子化を抑えるためにはどのような対応を行う必要があるかについては、「子育て負担軽減のための税制や社会保障制度の充実」(45.5%)が最も多く、次いで「教育費・住居費の軽減」(44.7%)、「出産や保育に関する経済的支援の充実」(28.8%)が多くなっています。

総数=132 (複数回答)

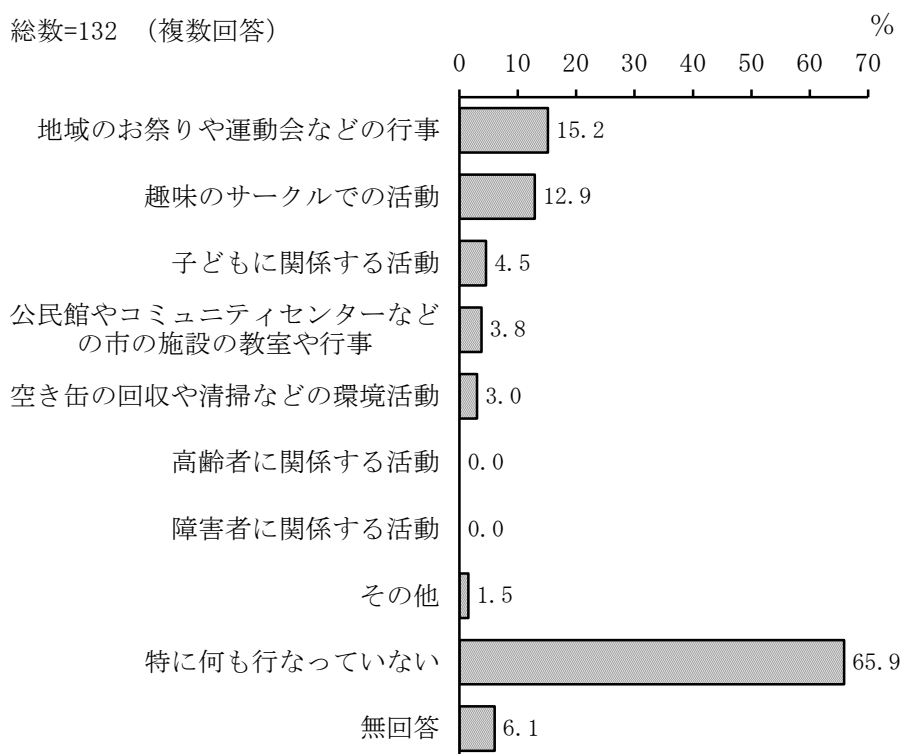


## 8 地域活動について

### (1) 地域での活動について

#### ①現在行っている地域活動

現在行っている地域活動については、「地域のお祭りや運動会などの行事」(15.2%)が最も多く、次いで「趣味のサークルでの活動」(12.9%)となっています。また、「特に何も行っていない」(65.9%)となっています。



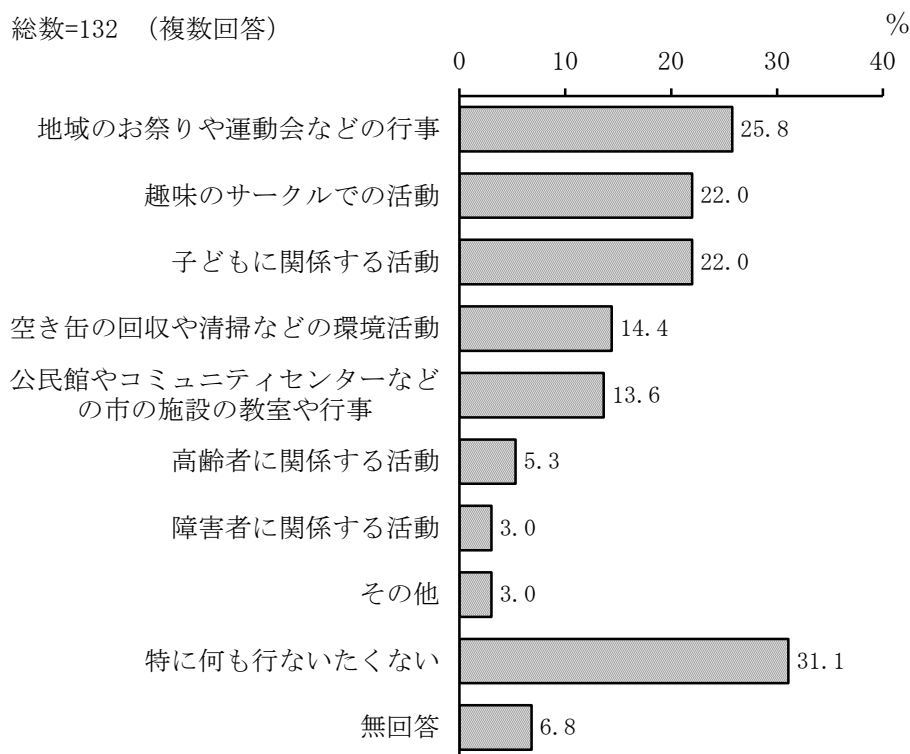
性別との関係でみると、「特に何も行っていない」という回答は、男性が女性より 18.6ポイント高くなっています。

#### 【現在行っている地域活動と性別】

	全体	地域のお祭りや運動会などの行事	空き缶の回収や清掃などの環境活動	趣味のサークルでの活動	公民館やコミュニティセンターなどの市の施設の教室や行事	子どもに関係する活動	高齢者に関係する活動	障害者に関係する活動	その他	特に何も行っていない	無回答
全体	132 100.0	20 15.2	4 3.0	17 12.9	5 3.8	6 4.5	-	-	2 1.5	87 65.9	8 6.1
性別	男性	42 100.0	2 4.8	1 2.4	5 11.9	2 4.8	1 2.4	-	-	33 78.6	3 7.1
	女性	90 100.0	18 20.0	3 3.3	12 13.3	3 3.3	5 5.6	-	2 2.2	54 60.0	5 5.6
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## ②今後行いたい地域活動

今後行いたい地域活動については、「地域のお祭りや運動会などの行事」(25.8%)が最も多く、次いで「趣味のサークルでの活動」と「子どもに関係する活動」(22.0%)となっています。



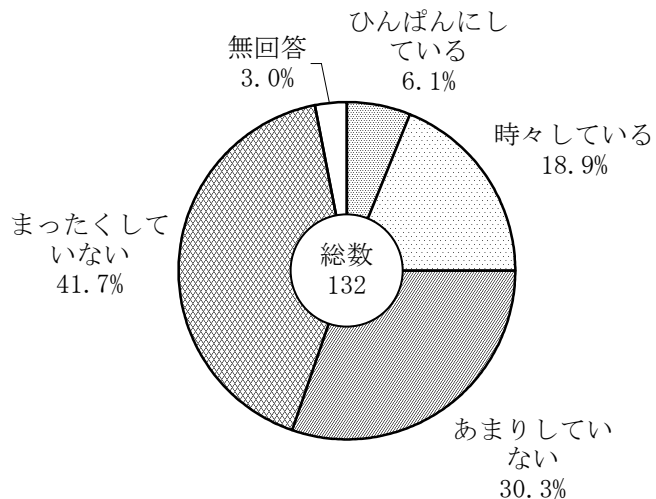
性別との関係でみると、「特に何も行ないたくない」という回答は、男性が女性より 10.3ポイント高くなっています。

### 【今後行いたい地域活動と性別】

	全体	地域のお祭りや運動会などの行事	空き缶の回収や清掃などの環境活動	趣味のサークルでの活動	公民館やコミュニティセンターなどの市の施設の教室や行事	子どもに関係する活動	高齢者に関係する活動	障害者に関係する活動	その他	特に何も行ないたくない	無回答	
全体	132 100.0	34 25.8	19 14.4	29 22.0	18 13.6	29 22.0	7 5.3	4 3.0	4 3.0	41 31.1	9 6.8	
性別	男性	42 100.0	8 19.0	9 21.4	12 28.6	2 4.8	8 19.0	1 2.4	1 2.4	1 2.4	16 38.1	3 7.1
	女性	90 100.0	26 28.9	10 11.1	17 18.9	16 17.8	21 23.3	6 6.7	3 3.3	3 3.3	25 27.8	6 6.7
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

## (2) 地域の子どもたちへの声かけや注意の頻度

地域の子どもたちに声をかけたり、注意を与えたりすることがあるかについては、「まったくしていない」(41.7%)が最も多く、次いで「あまりしていない」(30.3%)、「時々している」(18.9%)、「ひんぱんにしている」(6.1%)となっています。



性別との関係でみると、「頻繁にしている」「時々している」という回答を合わせると、女性(30.0%)が男性(14.3%)より15.7ポイント高くなっています。

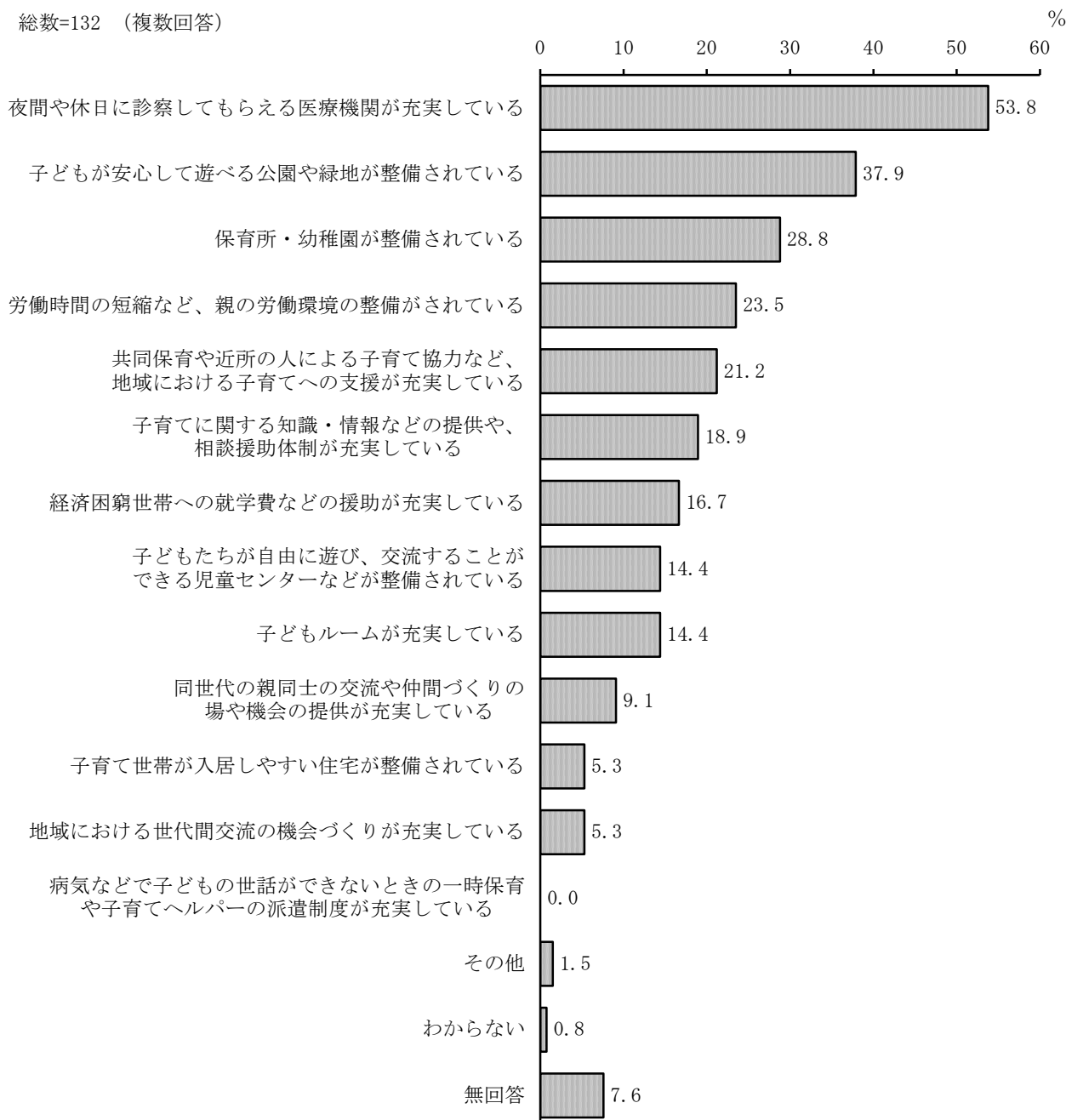
### 【地域の子どもたちへの声かけや注意の頻度と性別】

		全体	ひんぱんにしている	時々している	あまりしていない	まったくしていない	無回答
全体		132 100.0	8 6.1	25 18.9	40 30.3	55 41.7	4 3.0
性別	男性	42 100.0	2 4.8	4 9.5	12 28.6	22 52.4	2 4.8
	女性	90 100.0	6 6.7	21 23.3	28 31.1	33 36.7	2 2.2
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *

## 9 生活環境について

### (1) 子どもを育てていく上で望ましい生活環境

子どもを育てていく上で、どのような生活環境を望むかについては、「夜間や休日に診察してもらえる医療機関が充実している」(53.8%)が最も多く、次いで「子どもが安心して遊べる公園や緑地が整備されている」(37.9%)、「保育所(園)・幼稚園が整備されている」(28.8%)が多くなっています。





## (2) 現在の生活に対する満足度

現在の生活に対して満足しているかについては、「大変満足である」と「満足である」を合わせた回答は、「友人関係」(53.0%)が最も多く、次いで「家庭生活」(49.2%)、「配偶者」(41.7%)となっています。一方、「あまり満足していない」と「不満である」を合わせた回答は、「社会全般」(47.7%)が最も多く、次いで「収入」(45.5%)、「将来の希望」(38.7%)となっています。



(注) 5%未満数値: 家庭生活(2.3 4.5) 友人関係(- 1.5) 自分自身(1.5) 社会全般(2.3 1.5) 地域との関わり(3.8 2.3 1.5) 文化・余暇(3.0) 将来の希望(1.5) 収入(4.5 2.3)